



大松院浦和霊園便り

22年春
特集号
NO 15

大松院浦和霊園は平成10年に開設しました。

「ご先祖様を大切に」を合言葉に信仰の心をもつてお墓をお守りしてきました。お陰さまで、ご縁を戴いた方々の数が増加し、間もなく1500名になります。大松院は機関誌として、ご法要

でご縁を戴いた方を中心に「大松院浦和霊園ニュース」を発行してまいりました。諸般の事情で発行部数を抑えさきましたが、①霊園のご利用者が増加したこと、②念願の「ご先祖様を大切に」を実践拡大するために、霊園便りNO15から発行部数を逐次増刷することになりました。霊園行事の案内や、よく相談を受ける各種問題について記載し、皆様のお役にたつに努力いたします。準備時間の関係で、段階的な増刷にな

りますがご了承下さい。また今回の「お便り」の内容に、「大松院の紹介」等、すでにご案内済みの内容と一部重複記載した部分もあります。

大松院の紹介

大松院は包括法人で、真言宗智山派に属し埼玉第二教区寺籍二十八番です。総本山は京都の智積院で、成田山新勝寺、川崎大師平間寺、高幡不動、高尾山薬王院、大須観音、出流山満願寺と同じ宗門です。大松院は、信徒寺で浦和駅東口に本院があります。栃木県にある出流山満願寺とは深いご縁があり、満願寺の前曹主竹村教智の代から現代に至るまで、沢山のお導きを戴いて今日の大松院の基礎ができました。

住職の思い

③昨今、家庭崩壊に起因すると思える悲惨な事件が見られます。これは現代社会が、家族揃って「笑い・楽しみ・語の合う」環境が少なくなり、更に信仰を通してご先祖を敬う心が希薄になった結果であると思います。そこで大松院は霊園行事を通して、皆様に日本古来の信仰と家族の絆を確かめあう機会を少しでも多く持つていただけるように考えています。大松院は人の歩む道として最も大切なものは「人間としての道徳と教育にある」と信じています。今日の本人は「物の豊かさ」に眼が移りすぎ、目に見える物欲にかたよりがちで、精神面での大きな後れをとっているように見えます。ご先祖様から受け継いだ「農耕民族固有の人間相互の助け合いと、共に生きる共生の精神」と「先祖崇拝の心を忘れてはいけません。両親はもとよりお

爺ちゃんお婆さん、近隣友人との協調と信頼

そして森羅万象に対する感謝の気持ち、その成

果である秋の収穫を喜びを分かち合う「心」を

大切にしてきました。「村祭りの太鼓は、共生

と美りの秋の感謝」を村人皆が、こそって表現

した先祖崇拝の行事でした。人々はお寺に集ま

り、人々の心を結び付け、収穫を増やす知恵

災害に対する水の管理、飢饉に対する対応を語

り、ごく自然に協調の心を育みました。また勉

強する場所でもありました。これ等を指導する

お坊さんによって、多少の違いはあっても、目

的は一緒ですから三日月宗派によるこだわりの

一切ありませんでした。黒船が来ても日本は西

洋諸国の植民地とはならず、「西洋に追い付け

追い越せ」と汗を流しつつ明治維新を成功させ、

日本の文化と伝統を守り続けることが出来た

のも、先祖崇拝(信仰)の心のもとに一致団結し

た結果です。そして教育と道德の大切さを守っ

たことです。しかしこの度の敗戦は、「人間と

しての道德と教育」に大きな変化を与え、「人

間の物質的な欲望と精神的なもの」のバラ

ンス」を崩しました。大松院は、日本人の心か

ら生まれた伝統行事から、神仏を崇め先祖崇拝

を通してバランスを取り戻そうと考えました。

その第一歩として「節分祭」と「お盆の送り火」

を霊園行事として毎年執り行っています。また

この行事の前に勤行を行います。観音経・般

若心経・御詠歌を中心とした三日月宗派にとらわ

れない分かり易い内容に致しました。大松院が

執り行う葬儀や回忌法要も同様です。施主を務

められる方のお気持ちに合致するよう気配り

しています。お戒名も三日月宗派に拘ることなく、

ご無理のない費用でお授け致します。ご葬儀・

お戒名等の相談は霊園窓口どうぞ。

浦和霊園の主な行事(平成二十二年)

一、新年甘酒会(元旦三が日)

二、



浦和霊園節分祭 (法楽・法話会・豆まき)



若いも若きも
一斉に「福は内」

三、お盆・送火の夕べ(八月十五日)

*陣馬太鼓もしくはそれに準ずるものを用いし。

*塔婆と精霊船供養



陣馬太鼓の演奏でご先祖様を迎えます
最後にお塔婆を井桁に組んで護摩供養
お盆・送り火の夕べ



お正月 寅年の話(仏教と虎)

ある時、王様と二人の王子が森で戯れていた。王子は、その森の中で、七疋の子供をもつ雌虎が飢えて苦しんでいる姿を見つけた。王子達は「何か虎に与える物はないか」と考えた。第一の王子は「虎の食べ物は何だ」と云ったが名案が浮かばなかった。第二の王子は「間もなくこの虎は死ぬ。だれか自分を犠牲にする者はいないか」と叫んだ。第三の王子は「それは出来ない」と云って自ら自分の身を虎の前に投げ出した。その時大地は鳴動し、第三の王子の「自己のために行動した思いやりの心」を讃えた。仏教では「捨てる身の布施」として慈悲の心を大切にしているが、このお話は仏教の教えとして法隆寺の玉虫厨子に描かれている。寅年は良き行いをする者に福が来ると云われている。

現代人と宗教(変わる生活環境)

家族が集まり、会話をする団欒の時間がとりにくくなりました。最近家庭内暴力や巨悪犯罪が見られますが、底辺にはこのような現代の風潮があるからでしょう。人間は信仰の中から色々なヒントを得て、人は辛いことや苦しい事を乗り越えることができます。この時に強い幸福感を感じます。また次の難題に対処する力が湧きます。人間が人間らしく生き、真の幸福を得るためには、信仰に基づいて「心のよき・安定」を得ることが大切です。諸外国では信仰する宗教を憲法で定めている国も多々あり、信仰する宗教をもたない人は軽蔑されます。最近日本でも仏道に目覚め、救いを求めて四国八十八か所をめぐるお遍路さんの数が増加しています。

いざという時は「一報を まずお電話をください」

電話 048-882-9205

大松院はJR浦和駅東口駅下車。徒歩で約5分

の所にあります。東口出口からパルコに入り、

パルコの東口地下一階出口から出ると、道路目

前に大松院の建物が見えます。

通夜・葬儀初七日・戒名の合計費用の目安

1. 信士・信女・・・25万円から
2. 清(善)信士・清信女・・・30万円から
3. 居士・大姉・・・・・・・・35万円から
4. 院号居士・院号大姉・・・50万円から

<<大松院住職が祭祀致します。宗派は拘りません
お気軽にご相談ください

1. 年回忌法要の費用は霊園の規定どおりです。
2. お墓を建墓された時に行う開眼供養は大松院はお祝いの気持ちを含めて、
どこの宗派の方でも**2万円**で執り行います。
3. お塔婆は仏様と施主様はもとより、皆様から仏様に感謝の気持ちを含めて
さしあげましょう。私も気持ちを込めて**1本3,000円**です。



発行元 大松院
代表役員 片岡智鶴
電話 048-882-9205
FAX 048-882-9228



大松院はいつも皆様の菩提寺でありたいと願っています。仏事はもよほり、可能な範囲でお手伝いさせていただきます。